

DK-F8型/DK-F8W型 真空スイッチ

取扱説明書

本製品を安全にお使いいただくため、下記注意事項を必ずお守り下さい。

警告

- 濡れた手で電気配線などに触らないで下さい。感電の原因となります。
- 本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないで下さい。
- 本製品の分解や改造、修理を自分でしないで下さい。
- 本製品を破棄するときは地方自治体の条例にしたがって下さい。

取付け及び使用上のご注意

- 取付けは垂直方向（壁掛型）とし、サポートに3本のボルトを用いて固定して下さい。
- 配管での本体保持はしないで下さい。
振動により動作に悪影響を及ぼす可能性があります。
- 配管接続の際は、必ずフレーム（接続金物）"U" カット部をスパナで保持し、しっかりと配管のねじ込みを行って下さい。
- 銅合金を腐食させる環境では使用出来ません。
オプションで接液部SUS仕様品を用意しています。
- 流体温度70℃以上の環境では使用出来ません。
- 使用頻度が多く、また流体変動（脈動）が激しい場合、誤動作防止及び耐久性向上の目的でダンパー（絞り）を取付けて下さい。
- 真空スイッチの設定目盛はゲージ圧で「0」が大気圧となります。

1

調整要領

●設定圧力の調整

DK-F8型/DK-F8W型 真空スイッチは「真空増加時設定目盛」となっています。
指針⑫の指す数値は上限設定値（真空増加時）を示しています。
また、差分値（0.0027MPa【2.7kPa】程度）を減じた値が下限設定値になります。

【上限設定値の設定】

設定ノブ⑥を回し、指針⑫を希望する設定値に合わせてください。

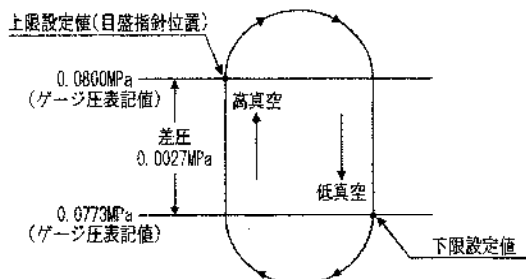
【下限設定値の設定】

希望する下限設定値に差分値（0.0027MPa【2.7kPa】程度）をプラスした値に指針⑫合わせてください。

※差分値は低真空域・高真空域とも常に同一値で動作します。

※上限設定値・下限設定値いずれの場合も、動作確認は真空計を使用して設定下さい。

【動作例】



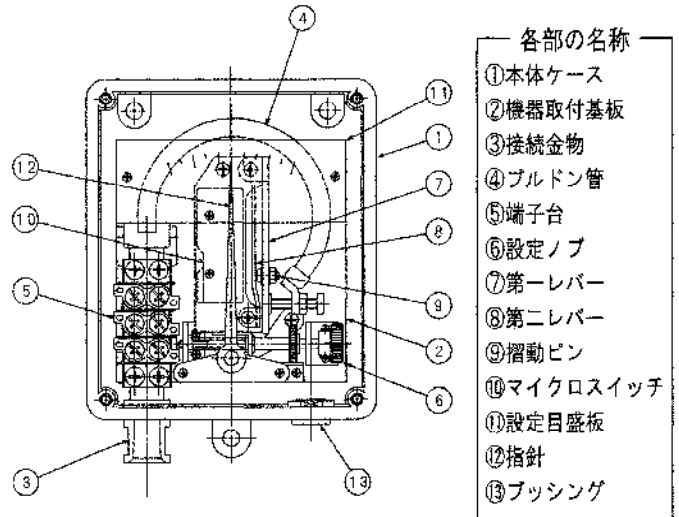
3

構造概要

DK-F8型/DK-F8W型 真空スイッチは、真空度検出素子にSUS316製ブルドン管を用い、真空度に応じたブルドン管の変位置で内蔵の単極双投型マイクロスイッチをON-OFF動作させ、電気回路を開閉します。

設定値の変更は、設定ノブを廻して指針を設定目盛に合わせることでマイクロスイッチの位置が変わり、設定値を可変する極めて取扱容易な構造となっています。

構造図



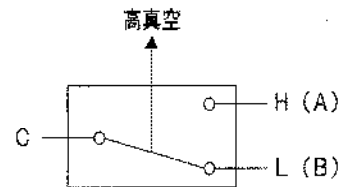
※上記はF8型の構造図です。F8W型は⑬プッシングの代わりに貫通金物JIS F8801が取付けてあります。

※上記構造図の部品形状は型式により若干異なりますが、動作原理・名称は同じです。

2

配線要領

- (1) C-H結線 (A接点)
高真空時に接点"閉"
低真空時に接点"開"
- (2) C-L結線 (B接点)
高真空時に接点"開"
低真空時に接点"閉"



【接点構成】

電気定格

電気定格は型式により異なります。型式番号内のアルファベットB1と下記の表が対応しています。

〔例：DK-F8-760-B1〕

B1	電圧	AC定格電流	DC定格電流
	30V	---	3A
	125V	7.5A	0.4A
	250V	7.5A	0.2A

4